



つどいの樹

第3号

～ 学ぶ会だより～

2021年3月1日発行



『白バラ』のモニュメント

2013年初夏、ナチの政権獲得から80年目のドイツを10日間旅し、ミュンヘン大学にある「白バラ記念館」を訪れた。地下鉄「大学駅」で降り、階段を上って外に出ると、大学前の通りにはGeschwister-Scholl-Platz 1(シヨル兄妹広場1)という標識がかかっていた。大学の正面玄関前の石畳に白いものが埋められていた。近づいてみると、『白バラ』のビラの重なり合ったモニュメントだった。

1943年2月18日、シヨル兄妹は講義中で人気のない大学の廊下にビラを置き、残りを階段から玄関ホールにまき散らした。降り注ぐビラに気づいた用務員に捕まり処刑された。

モニュメントの周辺には友人と語り合う学生たちの姿が見られた。大学構内は広く、「白バラ記念館」への行き方を尋ねるたびに、学生たちはすぐに教えてくれた。『白バラ』は現在の学生たちに生き続けていると感じた。

(写真・文: 檜崎由美)



戦争放棄—戦車はどこへ捨てたのか

安井 俊夫 (「学ぶ会」代表理事)

子どもは時折、教師が描いている授業のスジと、少々異なるところから疑問・質問を出してくる。憲法9条の授業のとき、「戦争放棄なら、戦車なんかはどこへ捨てたのか」「捨て場所はどこか・・・海？」と言うのだ。

確かに「放棄＝捨てる」だが、日本の場合はポツダム宣言によって「武装解除」されたものだ。まず戦車以上に巨大な艦船はどうしたのか。すでに連合艦隊は壊滅状態だったが、残存していた駆逐艦16隻、潜水艦7隻などは若狭湾、五島沖などで海水を艦内に濁流させ、自沈させられた(伊藤正徳『連合艦隊の最後』)。巨大な豊川海軍工廠が備蓄していた大量の火薬・砲弾類は、最終的には三河湾に海中投棄されていった(『豊川市史8』)。

満州ではソ連軍が関東軍を武装解除したのだが、戦車369、機関銃4836など膨大な数の兵器は八路軍—人民解放軍に引き渡された(香島明雄『中ソ外交史研究』)。日本軍の兵器は、国民政府軍との戦いで威力を発揮、中国革命に「貢献」した。

一方、埼玉県熊谷に進駐してきた米軍歩兵部隊は、飛行場にある爆撃機、戦闘機など82機を、さらに加須にあった戦車76両もガソリンをかけて焼却した。その残骸は、京浜東北線蕨駅前のヤミ市の脇にうず高く積み上げられ、憐憫を誘う無残な姿が人びとの目にさらされた(『新編埼玉県史図録』)。明治以来の富国強兵・軍備増強が行き着いた末路を如実に示すものだった。

風のいろ 戦争放棄—戦車はどこへ捨てたのか	安井 俊夫・・・2
今・学校で・教室で 微力だけど無力ではない	奥山 忍・・・3
交流の広場	
・少年飛行兵について学ぶ	山田 裕・・・4
・今こそ学び直そう！日本の近現代史—「学び舎」教科書で連続学習会	田中 結美・・・5
大学のキャンパスから 「歴史は暗記」の学習観の転換を教科書から	山本 政俊・・・6
歴史の窓 大塩平八郎は、何に怒ったのか	藤田 覚・・・7
授業づくりの土おこし	
モノから学ぶ歴史 ①インディオからの贈り物～ジャガイモ～	瀬戸口 信一・・・8
学びを深める 第3回 憲法9条と沖縄・基地問題	菅間 正道・・・9
随想 連載③ 寒緋桜に沖縄を思う	黒田 貴子・・・10
読者の声	・・・11
学ぶ会からのお知らせ	・・・12

微力だけど無力ではない

奥山 忍（活水中学高校教員）

2020年を振り返る

教育活動に大きな制約を受けた昨年。生徒は学校で、様々な行事を通して理解し合い関係性を深めるはずだった。部活動では、県総体もなく運動部も文化部も全国大会は中止。高3は、やり場のない思いを抱えた。世界中がコロナ禍だから…とは言っても。

相手と直接対話し、現実世界で学び合い成長する場である学校教育の大切さを思う。

75年目の8月9日、コロナ禍の長崎で

本校の平和学習部も否応なく影響を受けた。平和部の活動は、対外的な交流活動が重要だ。長崎の若者は「被爆者から直接話を聞ける最後の世代」の自覚を持つ。県外生徒との交流を通し、被爆地長崎を考える機会とし、発信の場を与えられてきた。また、長崎以外の戦争被害を知り、核兵器廃絶以外の多様な平和や社会活動を行う高校生と出会い、視野を広げ学び合う貴重な機会でもあった。

コロナ禍の困難な状況で数は減ったが、2020年8月9日、その機会を得た。「アジア交流友の会」の交流会に参加し、コロナ禍で長崎に残った韓国・中国の留学生・元留学生らと共に被爆者の話を聞く機会に恵まれたのだ。この会は、中国や韓国の旅を留学生と共にやるなど国際交流に取り組む草の根NPOだ。毎年8月9日に留学生と共に平和活動を行う。

8月9日の長崎は、学校以外にも様々な団体が市民に向け、被爆者講話や平和について考える場を設ける。平和大使や1万人署名活動メンバー、本校の平和部も、毎年、小中学校や様々な団体に招かれ、発信や学習の機会を得てきた。

この時、被爆者として話をされたのは、岡まさはる記念長崎平和資料館の理事も務め、近現代史を踏まえた原爆被爆講話をされてきた元教師の方だ。話を聞いた後、意見交流となった。韓国の留学生は「原爆の実態を被爆者から直接聞くことで原爆の恐ろしさを実感できた。韓国にいるとこのような機会を得ることは難しく、原爆で植民地支配を解放された、という歴史観しか持てなかっただろう」と述べてい

た。平和部の生徒が彼女の話はどう理解したかはわからない。ただ、会終了後、K-POP好きの生徒が彼女と楽しそうに対話を重ねていたことが印象深かった。

コロナ禍で、持続可能な未来へ向けて

オンライン交流は以前からあった。修学旅行での交流事前顔合わせの場合などだ。来崎できない米国学生や在独日本人生徒との交流、大阪の小学校とは本校に被爆者を招いて共に平和を考えるICT交流を行うこともあった。昨年2月、渡航制限の為、米モントレイでのクリティカルイシューズフォーラムにオンライン参加となったのを皮切りに、オンライン交流で出会えた東京の公立中や神奈川の私立高もある。制約はあるが利点もある。SNSが不慣れた大人を尻目に若者は活動の場を広げる。遠く離れた人と繋がる道具、本当に出会える機会の糸口としてICTは有効だ。もちろん、リアルな他者とのコミュニケーション経験を重ねることが学校教育の要となるが。

ワクチンはできたが変異型コロナも登場した。感染症と人類は共存してきた歴史がある。だが、核と人類は共存できない。2021年1月22日、核兵器禁止条約が発効された。感染症も核兵器廃絶もどちらも地球規模の人類共通の課題だ。人類が協力し合えば、どちらの課題も解決に向かう。ICTを上手に活用して様々な人々と繋がり、自分の課題の解決が、人類の課題解決に繋がると実感できると良いと思う。



平和部で『ふりそでの少女』の紹介冊子を作成しました。英・中・台・韓の翻訳付き。写真の生徒のうち4名は、中学では学び舎教科書で歴史を学びました。詳細については、「長崎新聞『ふりそでの少女』冊子配布」で検索を。

少年飛行兵について学ぶ

所沢社会科サークル(埼玉県) 山田 裕

所沢社会科サークルは、約 50 年前に設立されました。月 1 回の定例会で、小・中・高の授業実践交流やフィールド・ワークを行ってきました。若い教員や市民も参加して、学習を深めています。

今回、学び舎教科書の執筆者である榎崎由美さんをお招きし、少年飛行兵についてお話を聞きました。

武蔵村山の少年飛行兵学校

所沢は、120 年前に日本で最初の飛行場ができたことから、「航空発祥の地」と呼ばれています。所沢には、飛行・操縦・整備の学校が開設され、日本各地に分散していった歴史があります。榎崎さんが研究されている武蔵村山の東京陸軍少年飛行兵学校との関連を、綿密な資料をもとにお聞きしました。

お話から、飛行機の歴史はまさに戦争の歴史であることを実感しました。1937 年、日中戦争が始まると戦力増強の必要性から村山に「東京陸軍航空学校」が開設され、1943 年には「東京陸軍少年飛行兵学校」と名称が変わります。加わった「少年」の文字からは、入学年齢を 15 歳から 14 歳に引き下げ、より多くの子どもを戦場に動員しようとした事実が浮き上がります。少年飛行兵に誘う雑誌・写真も多数紹介されました。恰好よく訓練に励む写真を載せ、戦争の大義を説いて、子どもの心を掻き立てました。

戦局の悪化に伴い募集の回数や人数を増やし、敗戦までに陸軍少年飛行兵制度のもとで 4 万 4145 人が入校、うち 4507 人が死亡したとのことでした。

学び舎教科書に書かれた少年飛行兵



教科書 p. 235 には、17 歳 2 カ月で特攻死した荒木幸雄さんが出てきます。少年たちを待ち受けていたもの…榎崎さんのお話が荒木さんにつながります。

当時の男の子には「空を飛ばたい」というあこがれが強く、少

年飛行兵学校の倍率も 40 倍前後の高いものでした。荒木さんは運動能力がずば抜けた少年だったそうです。航空・通信・整備の技術には高度な知識や訓練が必要ですが、戦局悪化に伴い、荒木さんたちは基礎教育を省かれて、一日も早く戦地に行くための訓練を受けました。航空技術者になりたいという夢をもっていた荒木さん。しかし、沖縄での初出撃が特攻で、わずか 17 歳で亡くなりました。

教科書には、出撃を前にして子犬を抱く、あどけない表情の荒木さんと仲間の少年たちの写真があり、何ともやりきれない気持ちになります。少年飛行兵学校は、短期に大量養成し、未熟な技量（訓練する飛行機や指導者も足りなく）のまま、子どもたちを戦場に投入しました。補充のきく消耗品として扱ったのです。

なぜ 17 歳の少年が死ななくてはならなかったのか

「所沢飛行場と少年飛行兵学校との関連をお聞きし、地域を通して戦争が拡大するようすがわかった」「戦争に行った若かった伯父の姿と重なった」「もっと早く知っていたら授業で取り上げられた」など、活発に意見が出ました。

また、「特攻死した少年たちに葛藤はなかったのか」「突然、特攻の志願を命じられた少年はどんな気持ちだっただろう」「少年を英雄視や同情視することなく授業化するには、どんな点を注意すれば良いのか」など、少年飛行兵の心情をめぐる意見が出ました。

少年飛行兵の経験者から聞き取りを続けている榎崎さんからは、「経験者から、『当時は死を受け入れるしかないような気持ちだった』という声を聞く。そのような社会・教育の在り方を明らかにして、今という時代を見ていくことが大切だと思う」という意見をいただきました。

所沢「平和のための戦争展」は市や教育委員会からも後援をもらい開催しています。今年、33 回戦争展では、榎崎さんご夫婦に講演を依頼し、「少年兵」「飛行学校」などをテーマに、戦争で子どもが利用された事実を多くの人に知ってもらおうと計画しています。

今こそ学び直そう！日本の近現代史

－「学び舎」教科書で連続学習会

「めぐろ平和のつどい」実行委員会(東京都) 田中 結美

「めぐろ平和のつどい」の今まで

2015年、「戦争法」が強行採決されようとしていた頃、教員中心に「平和のつどい」をスタートさせ、若者や地域の方々の知恵と力を借りながら、6年間で、【東京大空襲】【満蒙開拓団】【日本軍「慰安婦」】などをテーマに学習してきました。

「学び舎」教科書を使って連続学習会を

「つどい」を重ねる中で、私たちは「日本の近現代史をもう一度学び直したい」という思いを強くし、他団体にも声をかけて、「学び舎」の中学校教科書を読む学習会を企画。区内の7団体で、実行委員会を結成したのは、2019年の12月のことでした。

参加者が小グループに分かれて教科書の近現代史部分を読み、2020年8月の「平和のつどい」に繋げる、4回連続の学習会の計画を立てたのです。

コロナ禍の中、4回の学習会

・2月 第1回「帝国主義の時代」

32名が4グループに分かれて教科書を読みました。読書会というスタイルに戸惑う人もいましたが、「日本の植民地政策をもっと学びたい」「戦争は儲かるもの、儲けるためのものなんだ」「中国、朝鮮との関わりを知りたい」など、沢山の感想と「次回も参加する」という声に溢れた学習会でした。

・3月 第2回「第二次世界大戦の時代（1）」

コロナ感染が拡大し始める頃でしたが、幸い会場が広がったので、予定通りに開催しました。参加者

が23名と減った分、一人ひとりの発言の機会が増え、討論が深まりました。「日本の加害については何度も何度も学ぶ必要がある」「無謀な戦争に突入して行った経緯をもっと知りたい」「戦後の歴史認識がドイツと日本で違いなのが辛く悲しい」などの声が交流されるとともに、戦時、幼少期を送った参加者のお話に聞き入るグループもありました。

5月6日に予定していた学習会はやむなく延期。その間、実行委員会で、「学習会は7月8月に継続。平和のつどい開催は今年は断念」と決定しました。

・7月 第3回「第二次世界大戦の時代（2）」

参加者15名。生死を彷徨った空襲体験、広島で被爆家族を探しまわったこと、戦後、GHQの指名で教壇に立った義父のこと、自分自身の体験や家族の体験が溢れるように語られたのが印象的でした。

・8月 第4回「現代の日本と世界」

参加者15名。敗戦後の日本がどのような経緯で今日に至ったのか、日米の問題、沖縄の問題、東アジアとの関わりなどが、今も自分たちの課題として突きつけられているのを共有した最終回でした。

今後の取り組み

その後、2回の実行委員会で、今後、身近な歴史資料を記録に残すこと、若い人と共に平和について考え行動していくこと等を話し合いました。その第一歩として、12月に「日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める署名」の宣伝活動を行いました。教科書の読書会も再開したいと考えています。





「歴史は暗記」という 学習観の転換を教科書から

山本 政俊（札幌学院大学教授）

毎年学生と訪問している「ノーモアヒバクシャ会館」（札幌）



歴史の素養があると

NHK朝の連続ドラマ「なつぞら」の舞台は十勝だった。その十勝の北西部鹿追（しかおい）町に、『神田日（にっ）勝（しょう）記念館』がある。ドラマの中では、吉沢亮が演じた農民画家山田天陽のモデルとなった美術館である。日勝という名前は、1937年日中戦争時に誕生した息子に父親が日本の勝利を願ってつけられた。神田一家は1945年の東京大空襲で焼け出され、国策の拓北農民隊として、原野の地に入植したのだった。旅など歴史の素養があると10倍楽しめることが人生には無数にある。

出会った先生、出会った教科書

3年前、この地に住む30代の女性から「鹿追で憲法寺子屋をやりたいとお願いしたら先生来ていただけますか？対象は子育て中のママです」と依頼を受け、2年間で9回の学習会を重ねてきた。その時、主宰したママが持参してきたのが高校時代の「政治経済」の教科書だった。「どうして取ってあったの？」「この教科書を使った政経の先生の授業がおもしろかったの。いろいろなことを考えさせてくれて、社会に目が開かれた。憲法ものっているし」そうか。人はいくつになっても何かを学ぼうと思えばテキストが必要なのだ。

30代の頃、ある会社の「現代社会」の教科書執筆に携わったことがある。その時に編集担当から用語リストを渡された。字数制限がある上に『この用語を落とさないで記述してください』ときた。「選定の基準はなんですか』『共通一次試験に出題されたことがあるタームです』『そこを意識しないとどうなりますか』『教科書が売れなくなります』

大学生の教科書検討

学び舎の中学歴史教科書「ともに学ぶ人間の歴史」は、チャレンジングだ。へえ〜の連続だった。重要

語句？とされる太字ゴシックがない。そうか、それも自分で考えろということなのねと妙に納得した。写真や図版に初めて見たものがあった。日本と世界がつながっていて、読み物としておもしろい。もっと知りたくなる教科書だ。学習指導要領の「歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動」にも合致する。そう考えて、「社会科教育法」のテキストに指定した。6月には、教科書展示会に足を運ばせ、教科書比較を体験、レポート報告をさせた。

・学び舎は各章ごとに振り返りの問題があつて、印象に残ったことを4コマ漫画で表現してみましようとする。太文字がないことで、単語だけを覚えるのではなく、流れからその時代には何があったのだろうという考え方が出来て、時代背景を考えることが出来ると思う。また絵を描くことは頭に残りやすいのでいい振り返り方だと思ふ。

・一番良かったことは、事実が具体的に記され、内容もとても深く「歴史の内容を多面的・多角的にとらえている」ということにあります。この教科書をみたとき、私は「資料集の1つとして持っておきたい」と率直に思いました。「主体的な学び」を生かした授業づくりも取り入れやすいと思います。現代の教育においてこの教科書にはもってこい！だと思いました。

来年度、この教科書を使用した学習指導案の作成や模擬授業を実施すれば、歴史=暗記という根強い学習観を転換できるかもしれない。今、学生の声が私の背中を押しています。



大塩平八郎は、何に怒ったのか

藤田 覚 (コアアドバイザー・東京大学名誉教授)

大塩の乱とは

1837 (天保 8) 年 2 月、大坂町奉行所の元与力よりきで陽明学者の大塩平八郎が、貧民救済のため門弟や民衆を動員して武装蜂起した大塩の乱は、幕府の重要な直轄都市大坂で元幕臣が公然と武力で反抗したことから、幕府や諸藩、知識人たちに大きな衝撃を与えた。『ともに学ぶ人間の歴史』では、天保のききんのもと全国各地で百姓一揆や打ちこわしが起こる状況のなかで、大塩が「救民」の旗を立てて兵をあげたことを記述している。

大塩はなぜ蜂起したのか

大塩が事件を起した理由は、富裕な商人らが米を買い占めて暴利を得る一方で、大坂町奉行は窮民の救済策をとることもなく、米不足にもかかわらず大坂の米を大量に江戸へ回送していたことを知り、窮民救済のため武装蜂起したと説明される (たとえば『詳説日本史』改訂版、山川出版社など)。たしかに、蜂起の直接のきっかけはそうだったが、大塩の怒りは幕府の腐敗にあり、それを根本的に転換させることが目的だった。

幕府の腐敗とは、当時の現職老中たちが大坂城代などの上方勤務をしていたときに、不正な無尽 (庶民の相互扶助的な性格のものではなく、射幸心をあおる博奕的なもの) に手を染めていたことである。大塩がそれを調べ上げて報告したにもかかわらず、幕府は大坂にいた下級役人を処分しただけで済ませてしまった。大塩は、老中ら幕閣のメンバーは無傷でそのまま居座っていたことに、激しい怒りと批判を持ち続けていた。

不正な無尽と老中たち

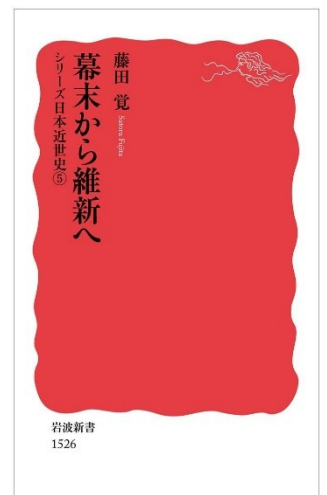
武家や公家が、文政年間 (1818~1830) に上方で

流行した不正無尽こうもとの講元 (本来は主催者だが、実際は名前を貸すだけ) になることにより、濡れ手で粟のような金を手にしていた。大塩は、大坂町奉行の指示もうけて、秘密裏にその実態を調べ上げ報告書を提出した。

そもそも、武家が無尽にかかわることは禁止されていた。幕府内部では、ことが公になると、大名改易 (領知の没収など) までありえる大変なことになるので対応を迫られた。老中、たとえば水野忠邦ただくになどは、無尽講の規約書を回収して借用証文に書き替え (文書の改ざん) させたり、証拠書類を焼却 (証拠の湮滅) させたりなどして、密かに処理してしまった。幕府は何もしないわけにはいかなかったため、大坂にいた下級役人を数人処分した。巨悪はまんまと生き延び、下級役人だけが処分され、一件落着かせたのである。

大塩は、不正に手を染めた者たちが 1838 年当時に老中を務めているという、幕府の腐敗を告発する書状を幕閣に送りつけようとした。しかし、箱根山中で盗賊により投げ捨てられ、江戸に届くことはなかったが、にらやま 葦山代官江川太郎左衛門英龍ひでたつがこれを回収し写しを残してくれたので、私たちはいまその真相を知ることができる。

不正を働いた老中が幕政を運営していることこそ幕府の腐敗の極みであり、大塩は、それが天保のききんにあたって民衆を見殺しにするような無策に結果したと怒ったのである。



藤田 覚『幕末から維新へ』 (岩波新書、2015 年)



モノから学ぶ歴史（子どもたちと学んだ世界地理の実践から）

①インディオからの贈り物～ジャガイモ～

瀬戸口 信一（元公立中学校教員）

世界各地に生きるさまざまな民族が、その地の環境・風土の中でいろいろな知恵を生み出し見事に環境を乗り越え現在まで生きてきた。これを学ぶことは、「人間の歴史」を学ぶことでもある。

子どもたちに身近なジャガイモ。これがアンデスからヨーロッパに伝わると、戦争や飢饉などの世界史の激動期に大きな役割を果たしてきた。それはなぜだろうか？

◆世界で一番人気の野菜は？

世界で一番人気のある野菜はなんだろう？「トマト」「キャベツ」「タマネギ」などと自由に発言させる。ここで、教室に持ち込んだジャガイモを提示し、これが世界で一番人気のある野菜だ。ジャガイモは、世界160か国以上で栽培され、生産量は年間3億トン以上。麦・米・トウモロコシに次ぐ世界第4の生産量を誇り「第4の穀物」と呼ばれている。一人あたりの消費は世界平均で約30kg。ジャガイモを使った食べ物は？と聞くと、ポテトチップ・フライドポテト・グラタン・肉じゃが・ポタージュ…。ジャガイモ料理は世界中に広がっていることに気づく。子どもたちはその意外性に「どうして？」と疑問を持ち考えはじめる。

◆悪魔の創った植物～じゃがいも～

現在世界一の人気を誇る野菜ジャガイモが、アンデスからヨーロッパに伝えられたのは大航海時代（16世紀頃）。そのとき、ヨーロッパ人は、「悪魔の創った植物」と呼び、食用としては普及しなかった。アンデスのインディオが栽培するジャガイモの写真を見せて、その理由を問うと、「見た目が悪い！」「芽に毒がある！」…。そう、見た目が当時流行していたハンセン病の腫瘍と似ておりまた毒があることを知って、病気の原因になると人々は信じた。また、ヨーロッパにはもともとイモ類がなく聖書にない食べ物だったので食用としては受け入れ難かったのだ。一方、貴族たちはその白い花を観賞用に重宝した。

◆飢饉とジャガイモ～貧者のパン～

しかし、17世紀になり、ある出来事をきっかけにジャガイモはあっという間にヨーロッパ中に広がった。そのきっかけとなったのは何だろう？と問う。その秘密はジャガイモのふるさとアンデスにある。インカの末裔たちがジャガイモを栽培する場面（DVD『人間は何を食べてきたか～ジャガイモ～』スタジオジブリ）を見せる。

すると、子どもたちは、「標高4,000mのアンデスの荒地で栽培している」「寒くて雨量も少ない」「地中で育つから、強風・雪や霜に強い」など厳しい環境の中でもあまり手間がかからず栽培できる事に気づく。こうして、ジャガイモはもともと高原植物なのでどんな厳しい気象条件でも栽培できる優れた野菜だと謎が解ける。

次にこのようなジャガイモの特性が発揮された世界史の出来事は？と問い年表を見せると、「30年戦争」「ドイツ大飢饉」を発見。そのときフリードリッヒ大王は、ジャガイモを拒む農民たちに栽培し食べるように強制したという。この出来事以来、ジャガイモは、「貧者のパン」としてフランス・アイルランドから東欧、北欧そしてアジア・アフリカ・北アメリカへと全世界に普及した。その結果、世界で飢饉の餓死者が激減し世界人口の爆発的増加という結果をもたらした。





子ども・若者を主権者／市民に育てよう―「知憲」「学憲」のススメ

第3回 憲法9条と沖縄・基地問題

菅間 正道 (自由の森学園高校教頭)

沖縄の基地問題をとりあげる

昨今、平和主義と憲法9条問題を授業で取り上げるのを躊躇してしまう、という声を聞くことがある。諸事情があるのだろうが、私は、米軍基地の74%が集中する沖縄と基地問題に焦点を当てた授業をおこない、生徒にこう問いかけた(詳しくは拙著『はじめて学ぶ憲法教室 4巻 憲法9条と沖縄』新日本出版社、2015)。

「圧倒的に沖縄に集中する米軍基地は、日本国憲法9条に照らして、どう考えたらよいのか。その手がかりとなる、ある新聞の投書が掲載された。みんなは、この投書の問いかけにどう応えるか?」

投書は、「朝日新聞」2010年4月29日付。タイトルは「『普天間問題』で国民意向調査をせよ」。調査項目のみを記すと、次のようなものであった。

質問1 日本に米軍基地を置くことに賛成ですか。

A 賛成です。 B 反対です。

質問2 Aと答えた人で、あなたの住む都道府県にそれを置くことには?

C 賛成です。 D 反対です。

これを、生徒たちに問いかけ、自分の意見を書いてもらい、それをもとに全体で議論するという場をつくった。米軍基地は平和な社会づくりに必要なか、否、不必要なのかを考え合う(この授業を受けた生徒との対話については、拙稿「僕の“政治の授業”はどうだったろうか」『18歳選挙権時代の主権者教育を創る』新日本出版社、2016)

生徒の意見

生徒の意見の分かれ方は、毎年およそAが1/4、Bが3/4であった。A、Bそれぞれから一人ずつの意見を紹介する。

まずはAから。「日本は9条を掲げている以上、誰かに護ってもらわなければいけない。(中略) 軍事力

を持っている国が近くにいる以上、防衛のみの軍事力が必要だ。米軍はいるだけで他国に対する威嚇となる。そもそも日本は米国に頼り切っているのだから、基地反対は現実的ではない。立場上、日本は非軍事ということになっているのだから。質問2はCだが、普天間基地のような建て方はどうか。自分は国分寺市に住んでいるが、昭島市にも米軍基地(横田基地)がある。近所と言えるが、四六時中飛行機が墜落して来なければ、何とか耐えられる。」

一方、Bの意見。「米軍基地が存在するメリットが見つからない。基地存続派は「何か起きたとき(外国からの攻撃など)に米軍が助けてくれる」というが、それは違うと思う。実際にどう助けるのかも分からないし、そんな大変な事態になったら、世界がその国(侵略国)を批判するだろう。そもそも、「日本を助ける」という理由は後付けであって、米軍基地が日本にある理由は「米軍が戦地に行くときに、日本が出撃基地として便利」というだけのものだ。そのために、思いやり予算を出し、騒音・危険性におびえる等おかしい。そして、基地問題は移設をしても変わらない。撤去をしてはじめて今ある問題が解決される。」

なぜ、近隣に存在をしてほしくないのか。それは、騒音・爆音など、日々、危険な状態と隣り合わせであることや、暴行事件やヘリコプター墜落事故などをふまえて「危険・不安」だから、ということに尽きる。自分の家の隣に米軍基地が置かれる。朝から晩まで戦闘機が爆音で空を飛ぶ。屈強な米兵が町を闊歩する…。これらを事実認識と想像力をもって、いかに「他人(ひと)ごとから自分ごと」に近づけるかが重要となる。

他者への共感性を欠いた、暗記的な、あるいは表面的な条文理解では、真に憲法を理解したとは言えないだろう。

連載③ 寒緋桜に沖縄を思う

黒田 貴子 (中学校講師)



勤め先の中学校に一本の寒緋桜があります。濃いピンク色の花が満開になるのは3月。

毎年1月に沖縄で咲き始める桜は、この寒緋桜です。

護郷隊という、やんばろの少年兵たちのことを御存知ですか？名護市史編さん室の川満彰さん、恩納村史編さん室の瀬戸隆博さん、

映画監督の三上智恵さんたちが聴き取りを重ね、80代半ばを過ぎた元隊員の方たちが重い口を開きました。陸軍中野学校出身者の指揮の下での少年たちが強いられた苛酷すぎる体験が明らかにされました。NHK番組『そして僕らは戦場で』、映画『沖縄スパイ戦史』が大きな反響を呼び、護郷隊のことが世に知られるようになりました。

良光さんの桜

隊員のひとりであった瑞慶山良光（ずけやまりょうこう）さんにお話しを伺いました。

良光さんは、骨と皮にやせ衰えた身体で家族の許に帰り着きました。しかし、PTSDによって、戦争の話をしては暴れるという発作をくり返し、座敷牢に閉じ込められるなど30年以上の苦悩の日々を送ります。回復した良光さんは仲間たちと会わず、

ひとりで故郷の山に寒緋桜の苗木を植え始めます。亡くなった仲間の数である69本の苗木です。

一昨年の1月26日、「良光さんの桜を見る会」が催されました。桜を植えた山の道を整備し、その日を迎えた良光さんのもとに、200名もの人々がやって来ました。護郷隊の仲間たち、護郷隊を指揮したことを一生悔やみ続けた村上治夫隊長の娘さん親子、そして良光さんに心を寄せる人たち…。この日、良光さんは、初めて満面の笑顔を浮かべられたと言います。

沖縄戦の実相を学んで

1月半ば、教室に名護市の桜祭りのポスターを貼り、「教室のベランダから寒緋桜が見えるのよ。まだつぼみが堅いけれど、沖縄ではもう満開なの」と話し、沖縄戦の授業を始めました。大本営が沖縄戦を、本土決戦のための時間稼ぎと位置づけていたこと、ひめゆり学徒隊の宮城喜久子さんのこと、強制集団死に追いこまれた人々、護郷隊、戦争マラリア…。生徒たちは、それぞれに沖縄戦の実相を深く受けとめました。

「3回の授業で沖縄戦のことを学んで行くうちに、どれだけ残酷で悲惨なものだったのか、なぜ、沖縄の人たちがそこまで『基地反対』を掲げて闘うのか、根底から理解できたと思う」（Sくん）

「人と人が刃を交じらわせ、その鋭い切っ先が、戦争責任者に向かうのではなく民衆に向く。いまの世界は、これをきちんと理解して再発防止に努めているのか。あまりにも歴史を軽んじている。この国から、人々の力で変えていきたい」（Kさん）

「良光さんが戦争によるPTSDと闘いながら私たちに伝えて行く義務があると思ってくれたことが嬉しい。だから私たちも伝えて考えていく義務があると思う」（Hさん）

3月、満開の寒緋桜を眺めて沖縄に思いを馳せる中学生たちがいることを、桜の写真と一緒に沖縄の方々に届けました。



読者の声

●「主体的・対話的で深い学び」に不可欠な魅力ある教科書

私が学び舎『ともに学ぶ人間の歴史 中学社会』を読んでみて、まず驚いたのは各タイトルの豊かさです。学び舎の教科書ではタイトルを一見しただけではその内容は掴みきれず、生徒が内容を知りたくなるようなものになっていると感じました。小説などの「サブタイトル」に近いような、その真意を知りたくなるような工夫がなされている点が良いなと感じた点です。

また、豊富な画像資料が掲載されているという点も魅力であると感じました。画像資料には最低限の情報のみを示すことで、教員としてはその画像から何を問うのかというところから考えることができるため、授業に自由度を持たせることができると考えました。また、生徒も画像をよく見て、気づき、疑問を持ち、より深く学ぶことにもつながるのではないかと思います。

さらに、各章の初めには必ず世界の動向が一望できるような世界地図が掲載されていて、かつそれが私の見慣れた「日本中心地図」ではないことに驚きました。日本から世界を見るというような従来の歴

史教育の考え方よりも、世界の中での日本を捉えるというこれからの歴史教育の在り方に相応しい構成になっていると思いました。

中学校で教材として「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業の中で生徒と使うことはもちろん、大学生である私や社会人の「読み物」としても優れたものであるように感じました。

最後に、余談ではありますが、祖父母より3代続いて横浜育ちの生粋の「ハマっ子」である私にとって、第4部6章(8)で横浜港が扱われているのが嬉しく思いました。


『ともに学ぶ人間の歴史 中学社会』のような魅力ある教科書が、多くの中学生に読んでもらえるようになってほしいと、実際に読んでみて強く思いました。
(大学生 河西 柊也)

*みなさまの声をお寄せください

学び舎教科書、学ぶ会会報、ブックレット等をお読みになった感想をお寄せください。また、学び舎教科書を使った学習会の予定、開いた時の会のようすやみなさまの感想を事務局までお知らせください。

manabukai@mbf.nifty.com

「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレット




ご注文は
学び舎へ

No.8

2月末 発売!

定価:700円+税



楽しくわかる・深く学べる
『ともに学ぶ人間の歴史』ガイド
改訂版教科書で新しく
なった部分を詳しく解説
定価 1400円+税

日元貿易と戦争の関係を考える授業 ● 四十栄貞憲
室町時代の菅浦荘と大浦荘の戦い ● 徳永裕之
— 中世を荘園から考える
沖縄戦の学びかた ● 安井俊夫
— 「荒れ狂う鉄の暴風」の授業構想
八丈島疎開船「東光丸」と
学童疎開孤児のその後 ● 檜崎由美

学び舎 : manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp



一般社団法人「学ぶ会」HP 完成・「学ぶ会」ML 開設のお知らせ

(1) 「学ぶ会」HPの全面リニューアルがついに完成しました

- ◆第2号のお知らせでHP制作の途中経過をお伝えいたしました。多くのみなさまが検索して下さったおかげで、グーグルやヤフー等で検索するとTOPページに表示されるようになりました。
- ◆「授業づくり」「研究者の視点」「市民学習の広場」もオープンしました。「リンク集」は、歴史を学ぶ中高生・歴史を教える教員・さらに歴史に関心のある方々に開かれています。300を超える、日本だけではなく広く世界の博物館・資料館へとクリック一つで繋がります。この歴史リンク集をどうぞご活用ください。

(2) 1月20日「学ぶ会」ML（メーリングリスト）が開設されました

- ◆みなさまが会員申し込みの際に記載された「メールアドレス」をもとに「学ぶ会」MLにご招待・登録させていただきました。今後、このMLを通して学ぶ会からの情報発信・会員相互の意見や情報交換などが活発に行われることを期待します。どうぞご発信ください。
- ◆350人分のメールアドレスをご登録いただきましたが、跳ね返ってきたメールが何通かありました。再度登録を試みますが手書きのアドレスを正しく読みとることはなかなか困難です。まだ、メールが届かない会員の方は、ぜひとも「学ぶ会」メールアドレス (manabukai@mbf.nifty.com) までお名前とご住所をお知らせください。すぐにMLに新規登録いたします。
- ◆またML登録をご希望でない方は解除いたしますのでご連絡ください。

(3) 「学ぶ会」会員を広げる活動にお力添えをお願いします

- ◆1月末現在、「学ぶ会」会員は550名を超えました。みなさま方のご協力に感謝申し上げます。これから7月までに1000名の登録をめざしたいと思います。
- ◆会員のみなさまの個人的なつながりを生かして会員拡大にご協力いただけませんか。お一人がお一人にお声がけ下されば輪が広がります。ご連絡いただければ必要な資料はすぐにお送りいたします。事務局にお気軽にお問い合わせください。 (manabukai@mbf.nifty.com)
- ◆学ぶ会では、3月からネット上でも会員登録をお願いする活動を進めます。みなさまのお知り合いやお友達、また所属の市民団体・研究会・趣味のグループなどのつながりを生かし、ネット（メール・SNS）を活用して会員にお誘いする活動にご協力くださるようお願いいたします。



一般社団法人
子どもと学ぶ歴史教科書の会（略称「学ぶ会」）
事務所住所 〒190-0022 東京都立川市錦町3-1-3-605
メールアドレス manabukai@mbf.nifty.com
ホームページ <http://www.manabisha.com>
編集・発行 一般社団法人「学ぶ会」会報『つどいの樹』編集委員会
タイトルDesign 株式会社久保田デザイン工房

